

# わが

## 屯田の開拓精神が受け継がれた 人と大地が躍動するすこやかなまち

はじめに

士別市は、北海道北部の中央に位置し、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々に囲まれ、全国で4番目の長さ誇る湖北の大河「天塩川」の豊かな水、そして肥沃な緑の大地に恵まれ、農業を基幹



広大な「羊と雲の丘」にある「羊飼いの家」

産業として発展してきました。その開拓の歴史は明治32年、最北で最後の屯田兵が入植したことによって始まり、昭和29年には、士別町・上士別村・多寄村・温根別村の1町3村が合併して市制が施行されました。

さらに平成17年9月1日、開拓当時から深いつながりのあった朝日町との合併により、新生「士別市」が誕生し、観光・スポーツ・文化など、さまざまな面で大きな可能性を拓けながら新たな歴史を刻んでいます。

士別市の基幹産業である農業は、稲作を中心に畑作や野菜、酪農など幅広く営まれ、現在、集落営農を目的として水田の再編整備事業にも着手しており、整備済みの1区画最大6・9haの大型圃場では、GPSを使った田植えなどのIT

農業にも取り組んでいます。

また、サフォーク羊をまちづくりの顔とした市民運動が、四半世紀を超えて展開されており、「サフォークランド士別」として総合的な取り組みを進めているほか、「合宿の里」「自動車等試験研究のまち」「生涯学習のまち」「水とみどりの里」を柱としたまちづくりを進めています。

### サフォークランド

市街地の中心部から車で西に向かうと、少しずつ小高くなる丘が広がります。そこが「羊と雲の丘」の入口で、まるで、ヨーデルや角笛が聞こえてきそうな、牧歌的な香りが漂います。

市街地の街並みや、遠くは大雪連峰を望むことのできる丘では、白い毛に真っ黒な顔を持つ羊「サ

フォーク」が、群れながら黙々と草を食っており、私たちの心を癒やし、和ませてくれます。

丘の中腹には、世界各国30種類の珍しいめん羊を展示する日本一の「世界のめん羊館」があり、館内にある「めん羊工芸館」では、オリジナルの帽子やマフラーなどの羊毛工芸品をつくることができます。頂上には、「羊飼いの家」があり、1階では羊毛セーターや士別の特産品の展示販売をしており、2階には新鮮な羊肉料理などが満喫できるレストランがあります。

すぐ隣のめん羊牧場では、牧羊犬が羊を思い通りに誘導するシーブドッグショーや羊の毛刈りショーも楽しめます。

また、まちの東側に向かうと、美しい川西の丘の一角に200haの農場「かわにしのお農家」があります。

ここで育った羊の肉は、全日空国際線ファーストクラスのメインディッシュや横浜APECのテ

ブルに並ぶなど、高級羊肉として全国に出荷されています。

農場内にあるおしゃれな建物「ファームイン・ラムダ」には宿泊することもでき、1階のレストラン「ミュー」では、士別の絶景を眺めながら、ここでしか味わうことのできない数々のサフォーク料理が楽しめます。

### 合宿の里

夏の冷涼でさわやかな気候や冬の雪と寒さなどの豊かな自然環境の下、スポーツや文化活動など、毎年延べ約2万人を超える合宿者が訪れます。特にスポーツ合宿については、日本陸連や実業団連合、全日本スキー連盟などの強化合宿地として利用されるとともに、そのほかの競技の選手も多数訪れるなど、今や日本一の「合宿の里」としての評価をいただいています。

合宿選手と市民との交流も行われており、本市で汗を流したわが国を代表する数多くのトップアスリートが、世界で活躍することは、市民の誇りにもなっています。

また、芸術・文化活動などの合宿も盛んに行われており、「市民文化センター」や「あさひサンライズ

ホール」という2つの文化ホールを拠点に、豊かな市民文化や芸術の創造を主眼に「文化・芸術の里」づくりにも取り組んでいます。

### 自動車等試験研究のまち

本市は、夏と冬の寒暖の差が60度にもなります。

この自然環境を利用して、世界有数の規模を誇るトヨタ自動車の試験場を筆頭に、ヤマハ発動機、ダイハツ工業、ブリヂストンをはじめとした優良・有力企業の試験研究施設が立地し、自動車あるいはタイヤなどの研究開発が行われ、士別発のさまざまな製品が全国で活用されています。

### 水とみどりの里

道立自然公園に指定されている天塩岳はじめ、岩尾内湖、天塩川など本市には恵まれた自然があふれています。

標高1557・6mの天塩岳は、大雪山国立公園の旭岳の真北に位置する北見山地の最高峰の山で、道内でも有数の高山植物の植生地として知られ、時にはナキウサギなどの珍しい動物たちに出合うこともあり、毎年多くの登山客が訪

れます。

また、天塩川の清流を満々とたたえた岩尾内湖畔には、オートキャンプ場などが整備され、7月には「岩尾内湖水まつり」が開催され好評を博しています。

### むすびに

このように、本市は地域の特性を生かし、その個性を伸ばしながら

ら、まちづくりを進めてきました。が、今後も先人たちの歩んだ開拓の歴史と気概に思いをはせつつ、新たな発想の下、「対話・調和・市民の輪」を基本に、柔軟かつスピードと実行力をもって「元気なまち」「市民が笑顔で暮らせるまち」の創造に向けて、市民の皆さまとともに、果敢にチャレンジしてまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 1119・29km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万1564人
- ◆ 世帯数 9897世帯

〔将来都市像〕天塩の流れとともに人と大地が躍動するすこやかなまち  
〔まちの特徴〕天塩岳をはじめとする山々に囲まれ、天塩川の源流域にある水と緑豊かな田園都市

〔市町村合併〕平成17年9月1日、旧士別市と旧朝日町とが合併

〔特産品〕ジンギスカン、ラム肉、羊



士別市長 牧野勇司



毛ニット製品、米、麦、馬鈴薯、豆類、甜菜、玉葱、南瓜、ブロッコリー  
〔観光〕羊飼いの家、世界のめん羊館、めん羊工芸館「くるるん」、岩尾内湖、天塩岳、かわにしのお農家  
〔イベント〕サフォークランド士別ハイフマラソン大会、全日本サマージャンプ朝日大会、全日本スノーモビル選手権士別大会、朝日ノルディックスキー大会、士別天塩川まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



# わが

## 「安全・安心を実感しながら安定した生活ができるまち」を目指して

はじめに

茅ヶ崎市は、東京都心から南西へおよそ60km、相模湾の中央に位置し、東に湘南江の島、西には富士、箱根の山々を望み、南に伊豆大島、北には相模台地へと連なる丘陵地帯がある、海と里山の豊かな自然に恵まれた地域です。

面積は35・76km<sup>2</sup>で、東西・南北とも約6kmのコンパクトなまちですが、さまざまな自然の恵みを受けながら独自の歴史文化がはぐくまれてきました。温暖な気候、青い海、緑の松並木など本市の魅力は、多くの人々を引き付け、明治30年に歌舞伎俳優の9代目市川團十郎が別荘を構えたのを皮切りに、近代演劇俳優の川上音次郎や日本の女優第一号の川上貞奴、数多くの名曲を残した作曲家の山田耕筰

昭和に入ってから、映画監督の小津安二郎、ミュージシャンの加山雄三や桑田佳祐、小説家の城山三郎や開高健、最近では宇宙飛行士の土井隆雄や野口聡一など多くの著名人が移り住むなど、その活動を通して各界に多大な功績を残すとともに現在の茅ヶ崎市にとって大きな財産となっています。

### 公共施設の耐震化の取り組み

本市では、昭和53年に東海地震にかかる地震防災対策強化地域に指定されていることや平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)を踏まえて、公共施設の耐震化事業にスピード感を持って取り組んできました。特に、次世代を担う子どもたちの安全・安心な教育環境整備として、学校施設や公立保育園の耐震診断

を実施し、補強が必要なすべての校舎棟と屋内運動場の耐震補強工事を平成19年度までに完了しています。

そのほかの耐震性に課題のある公共建築物については、平成20年3月に策定した「公共施設整備・再編計画」における中長期的な展望の中で、平成32年度までにすべての公共建築物の耐震化を完了する予定です。また、市内の橋りょうについても、主要な14橋に耐震補強工事を実施することとし、23年度末までに5橋の耐震補強工事を完了し、27年度の整備完了を目指しているところです。



「えぼし岩周遊船」から見た「えぼし岩」と「富士山」

### 「減災」に向けた取り組み(防災都市づくり)

本市においては、大きな被害をもたらす地震として考えられてい

る東海地震、南関東地震、神縄・国府津―松田断層帯地震など7つの地震が想定されており、これらの地震によるさまざまな被害の想定を検証するとともにその対策の見直しに迅速に取り組んでいくところです。

平成20年度には、本市の都市構造の脆弱性を把握し、より効果的な防災・減災対策を進めることを目的に、地域危険度測定調査(建物倒壊危険度、火災危険度、道路閉

塞確率、地区内通過確率)を行い、公表しました。

この調査結果を受けて、公助のみならず、自助(個人)・共助(地域)の力をさらに強化するとともに、「地域住民主体の防災都市づくり」をより推進する目的で、平成21年度から23年度まで、市内にモデル地区を選定し、住民の皆さまと協働で「防災都市づくりワークショップ」を実施してきました。

各地区のワークショップでは、「まちあるき」(地域点検)を実施し、災害時に「地域で危険となること



地域の危険なところと資源を探す「まちあるき」

ろ」地域の資源となるところ」を把握しました。それらを踏まえた上で、グループごとに討議を行い、「今後、地域でできる具体的な防災の取り組み」で議論した内容を基に、地域住民の皆さまによる新たな防災活動が実施されています。

このような「防災「減災」に向けた取り組みを進めていく中で、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)を踏まえて、本市における防災の重要課題504項目からなる「茅ヶ崎市防災対策強化実行計画」を23年6月に策定し、2カ年での完了を目指して取り組みを進めているところです。

この1年間の取り組みとしては、対応済みの項目と、既に対応を済ませた上で引き続き事業を継続している項目は、全課題504項目中441項目で全体の87・5%に当たります。残る63項目につきましましては、対応中が37項目、対応準備中が26項目となっています。

これらの取り組みの中には、当然のことながら、行政だけでは対応できない課題もあります。情報伝達手段の確立や自主防災組織の体制強化、要援護者情報の共有など、市民の皆さまとの連携が不可

欠な課題16項目については、「安全・安心のまちづくり推進に向けて地域と協力して行う主な取り組み」としてまとめ、地域、市民の皆さまと連携を図りながら、取り組みを進めているところです。

防災は、自助、共助、公助といわれますが、それぞれは別個にあるものではありません。市民の皆さまのご協力をいただきながら、

地域と行政がしっかりと連携し、防災の課題に取り組んでいくこと、それが、災害に強いまちをつくるべく、鍵になると考えています。

今後も、この茅ヶ崎で、市民の皆さまが安全・安心を実感しながら、安定した生活を送ることができ、次世代にしっかりとバトンタッチしていける持続性の高い、魅力的なまちづくりを進めていきます。

### プロフィール

- ◆ 面積 35・76 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 23万6177人
- ◆ 世帯数 9万5133世帯

〔将来都市像〕海と太陽とみどりの中で、ひとが輝き、まちが輝く、湘南・茅ヶ崎

〔まちの特徴〕相模湾に面した湘南の中央に位置する特例市で、約6kmの海岸線には、通年、多くのサーファーの姿があり、北部には緑豊かな里山が広がる自然に恵まれた温暖な気候のまち



茅ヶ崎市長 服部信明



〔特産品〕生しらす、釜揚げしらす、たたみいわし、生わかめ、サザンコロッケ、湘南ビール、ちがさき牛

〔観光〕えぼし岩、サザンビーチがさき、茅ヶ崎サザンC、サザン神社、神奈川県立茅ヶ崎里山公園、茅ヶ崎市開高健記念館

〔イベント〕大岡越前祭、湘南祭、浜降祭、サザンビーチがさき花火大会、茅ヶ崎ジャンボリー、えぼし岩周遊船、初摘み・生わかめまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



# わが

## 「安心・快適 私たちが創る みづなみのまち」を目指して

はじめに

瑞浪市は、日本のほぼ中央に位置し、美しい山並みが周囲を囲む豊かな自然に包まれたまちです。

中山道を中心に栄えた長い歴史を持ち、1300年有余の歴史を持つといわれる美濃焼とともに発展してきました。この古い伝統を持つ窯業の技術は、この地で脈々と受け継がれており、現在では、高品質で「和と洋」が融合したデザイン性の優れた陶磁器食器を創り上げ、独自ブランド「みづなみ焼」として世界中の見本市に出品し、国際的にも高い評価を得ています。

また、緑豊かな自然に包まれたこの地も、太古の昔は海の底でした。市のあちこちから、およそ2000万年前、新生代の化石が

出土し「化石のまち」としても知られています。

### 農業の6次産業化

本市は、地域の約75%を森林や農用地が占め、鶏卵、肉用牛をはじめとする畜産物の産出額は県内でも上位を争うなど、農業は本市の重要な産業といえます。しかし、高齢化の進展、後継者の不足とともに農地の荒廃が進み、自然豊かな田園風景が失われつつあります。

本市の生産農家は兼業・小規模農家がほとんどであり、多品種少量の農産物を生産出荷することに適応しています。市では、この特性を生かした地産地消の農産物の生産直売と、その農産物の手づくり加工に取り組み農業者を育成し、農業を「なりわい」として成り

立たせることが必要と考えました。そのため母体となる組織として、市、商工会議所、JAなどが出資して「みづなみアグリ株式会社」を設立するとともに、出荷農家の組織づくりに取り組んで

ました。そして、平成24年6月20日、その活動拠点となる瑞浪市農産物等直売所「きなあつた瑞浪」がオープンいたしました。

「きなあつた瑞浪」は、周辺に広がる農地と施設を一体とした「農家の庭先モール」をコンセプトとし、農商工連携の下、「農」から「食」へ事業展開し、農業の6次産業化を図ろうとするものがあります。

現在、市内外の多くの方にご利用いただいています



農家の庭先モールをコンセプトとした瑞浪市農産物等直売所「きなあつた瑞浪」

### ゴルフの町みづなみ

市内に13カ所のゴルフ場があるのも魅力の一つです。自然との触れ合い、仲間づくり、健康づくりというゴルフの魅力を十分活用し「ゴルフの町みづなみ」として、市とゴルフ場が連携し、ゴルフを起点とした観光振興、地域振興に取り組んでいます。特に、一大イベント「ゴルフの町みづなみ オープンゴルフ大会」は、13カ所すべてのゴルフ場を舞台に開催し、市外からの参加者も多く交流人口の拡大に大きく寄与しています。

また、この連携がもととなり、災害時にクラブハウスなどを市民の皆さんのための緊急避難所として活用するなど、市とゴルフ場と

の間で災害時応援協定を締結しました。

### 安全で安心なまちづくり

東日本大震災以降、各自治体では広域的な災害に備える動きがありますが、本市においても災害への対応を見直し、大規模な地震災害でも同時には被災しない位置にあると考えられる埼玉県朝霞市と災害時の相互応援協定を締結しました。そして、協定の締結をより実効性のあるものとするため、広く市民の協力を得て、市民レベルでの支援体制が確立できないかと考えました。

本市では、市内8地区すべてに継続的にまちづくり活動を行う「まちづくり推進協議会」が組織と

して立ち上がっており、それぞれの協議会では、防災をはじめ各地区の課題解消に向けた主体的な取り組みを行っています。市は、そうした活動に対し、財政的な支援として「夢づくり地域交付金制度」を創設し、併せて人的な支援として「夢づくり地域活動支援職員制度」を設けています。

このまちづくり推進協議会と連携して、市民主体の災害協力体制の確立と強化を図っていくことが、今後の課題であると考えています。まちづくり推進協議会を中心とした市民の皆さんと市との協働により、安心・快適に暮らすことができる瑞浪市づくりを進めていきます。

### プロフィール

- ◆ 面積 175.00 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万9213人
- ◆ 世帯数 1万4891世帯

〔将来都市像〕安心・快適 私たちが創るみづなみのまち

〔まちの特徴〕1300年の歴史を持つ美濃焼を中心に発展してきた商工業都市。中山道の宿場や一里塚、信長ゆかりの城跡や由緒ある寺院が残る歴史のまち

〔特産品〕みづなみ焼(陶磁器)、マコモタケ、みづなみポーノポーク(豚肉)、鶏卵



瑞浪市長 水野光二



〔観光〕瑞浪市農産物等直売所「きなあつた瑞浪」、中山道大湫宿・細久手宿、小里城跡、鬼岩公園、瑞浪市化石博物館、岐阜県先端技術体験センター「サイエンスワールド」、ゴルフ場(市内に13カ所)  
〔イベント〕瑞浪美濃源氏七夕まつり、バサラカーニバル、鬼岩福鬼まつり、半原操り人形浄瑠璃や美濃歌舞伎の各種公演

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



まちづくり推進協議会開催の防災運動会



# 人と海のふれあうまち、上天草市

## 美・食・癒・遊 上天草

上天草市は、ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれる風光明媚な地域です。千巖山、高舞登山、龍ヶ岳の3つの山からの眺めは国の文化財「名勝」に指定されており、高舞登山から見る夕陽は「日本の夕陽百



天草上島の東海岸沿いの高舞登山から龍ヶ岳へと連なる「観海アルプス」

選」にも選ばれています。また、九州本土と天草を結ぶ天草五橋は天草パールラインとも呼ばれ「日本の道百選」に選ばれており、その沿線は四季折々の花で彩られています。有明海と不知火海(八代海)の2つの豊かな海に面しているため、クルマエビやタイ、ハモ、ワタリガニ、海藻類など海産物の宝庫でもあります。また、温暖な気候を利用したパルル柑、ポンカンなどかんきつ類の栽培も盛んです。畜産では、地鶏の天草大王、天草黒牛、梅肉ポークが知られています。温泉も豊富で、特に松島温泉は美人湯として人気があります。海を眼下に見下ろしながら登山を楽しむ観海アルプスコース(九州自然歩道)やハイキングコースがたくさんあり、多くのアウトドアファンが訪れています。中でも本

市の維和島にあるハイキングコースは、本年2月に韓国版トレッキング「オルレ」の認定コースに国内で初めて選ばれました。現在、国内ばかりでなく韓国からの旅行者も徐々に増えてきています。また、1年を通して楽しめるイルカウォッチングでは、有明海に生息する野生のミナミバンドウイルカに出合えます。観光、グルメ、温泉、自然体験と地域資源に恵まれた上天草市で「美・食・癒・遊」を存分に経験してみてください。きつとご満足いただけると思います。

### 危機的状況を回避

本市は、平成16年3月31日に、大矢野町、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町の4町が合併して誕生しました。4町とも財政的に脆弱な自治体で、合併当初は財政再建を重点的に取り組んできました。合併当時から比較すると職員数も約25%削減し、そのほかあらゆる分野において行政改革を進めてきた結果、危機的状況を回避し、現在、「上天草市の飛躍」に向けて、観光振興と6次産業化の推進を中心とした経済振興を重点的に取り組んでいるところです。

### 戦略的なイメージづくりによる観光振興と6次産業化の推進

平成23年10月に、JR九州が観光列車「特急A列車で行こう」をJR三角線(愛称…JRあまくさみすみ線)において運行を開始しました。本市では、A列車の「A」に併せて、JR三角駅から本市に接続する定期船「シークルーズ」の内装を改装し、観光列車「シークルーズ」を「上質な大人(A d u l t )の旅」としてPRしています。また、本市の豊富な食材を生かした「A級グルメフェア」の開催や、大人の空

間づくりとしてのJAZZコンサート開催など、戦略的なイメージづくりによる観光振興に取り組む、宿泊客も増加しています。そして、本市は豊富な農水産資源に恵まれておりますが、農漁業者の所得減少や担い手不足などにより、衰退の一途をたどっていました。そこで本市では、農水産物の生産から加工・流通までを一体的に取り組む「6次産業化」を強力に推進しています。

平成23年3月には「上天草市農林水産物加工品開発研究センター」を建設し、併せて農林水産課内に設置した「ブランド推進室」による体制の下、生産者が加工品を開発しやすい環境を整備するとともに、有名シェフと協力しながらお菓子やドレッシングなど市独自による開発も行っているところです。

また、企業誘致課においては、企業の誘致だけではなくブランド推進室と協力しながら特産品の販売ルートの拡大にも取り組んでおり、九州内ばかりではなく関西・関東までプロモーション活動を実施しています。さらには、本年4月からこれを加速させるべく、ぐるなびやリ

クルートからノウハウやネットワークを有する人材を市役所の職員として招きながら取り組んでいるところとです。

### 地域再生のモデルに

上天草市は市制施行10年を2年後に迎えますが、普通交付税も合併算定替えから一本算定への移行に伴い、平成26年度から段階的に減額され、平成31年度には歳入総額が大きく減少することとなります。



「ファンタジック!「楽園上天草」」をデザインコンセプトにした3連ポスター

このことから、これまで実施してきた財政改革による徹底したムダの削減は引き続き行い、これまでに精査し、廃止・縮小するなど、事業の選択と集中により捻出された予算を市民所得の向上に資する施策に重点的に投下することで税収を向上させ、財政規模のV字回復を図ることを基本理念とする「上

天草市財政強化計画」を本年7月に策定しました。これからの上天草市は、民間の商社と同様に利益を上げ(産業・雇用の創出、移住定住の促進、交流人口の拡大など)、投資(人材育成、市民所得の向上に必要なインフラ整備など)をしながら、地域再生のモデルとなるよう上天草市の飛躍に向けて取り組んでまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 126.06 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万1042人
- ◆ 世帯数 1万2258世帯

〔将来都市像〕人と海のふれあうまち  
〔まちの特徴〕天草の玄関口に位置する風光明媚なまち

〔市町村合併〕平成16年3月31日、大矢野町、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町による対等合併

〔特産品〕クルマエビ、タイ、ハモ、ワタリガニ、パルル柑、ポンカン、



上天草市長 川端祐樹



天草大王、天草黒牛、梅肉ポーク  
〔観光〕天草五橋周辺の景観、九州オレレ維和島コース、九州自然歩道(観海アルプス)、上天草市交流センター「スパ・タラソ天草」  
〔イベント〕天草五橋祭、天草パールラインマラソン大会、キララ祭天草サンライズウォーク、菜の花ウォーキング

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。